

HDM推進会（第6回）／ごみゼロネット推進会（第28回）議事録

開催日： 2010年（H22年）9月 20日（月）10:00～12:00

場所： 公民館本館3F学習室

出席者： 野見山議員、大橋、市原、杉本、平林、加藤、加賀谷、川村、斉藤、藤原、堀端、桐生（作成）



議題：

予てより要望していた行政との次回会合が9/22 9:30より市役所第二庁舎801会議室で行われることになった。本日は、当日、当方より何を提案し、どのように議事を進めるかについて、事前に相談するために急遽開催された。

1. 9/14ごみ特別委員会の傍聴感想

- 野見山議員が① HDM実証試験はその後どうなっているか、②庁内で賛成者が出ていると聞くがHDM推進市民グループとのその後の話し合いは、と質問していただき、9/22の行政との会議がセットできた。（杉本）
- 朝日新聞にも掲載されていたが、ごみ焼却場に関しての委員長声明が出された。本年2月を国分寺、府中、調布とこの問題に関して話し合いを持つべき大事な期限と考えている。（加藤）

2. スライドによるHDM問題の現状認識

- 市民が無償で配布を受けている生ごみから製造した堆肥の原価は1,013円/kgである。
- 小金井市のH21年度ごみ処理費用（含む収集運搬費）は87,800円/トである。
- HDM処理であればフォレスト社の一般的環境下での見積もりは12,000円/ト、久喜市の4ト/日実証施設の実績は12,800円/ト、市街地での施設の当方試算では17,000円/トとなっている。（収集費、人件費についても試算していたが、細部で異論が出やすいので、そこは行政にやって貰うべきとの意見あり）
- 生ごみ処理機の補助金を4年間に亘って予算と実績で対比すると、現在までの予算残は61,531,900円になる。H22年度は2,650万円の予算をとっており、現状では1,000万円台の消化残がある。
- 小金井市が「ごみ収集袋」を有料で販売してプールしている「環境基金」が約8億円ある。それだけの基金がありながら、前回の打合せで行政がHDM実証試験の予算をとるタイミングの問題があり、最長では1年間何もできないような話を我々にしたのは何故か。
- 行政の現在の姿勢は①都の建築指導所が堆肥製造施設と判断してノーという、②住民の同意が得られるか、③予算を取る時期が大分先になりそう、を障害として挙げている。

3. 9/22行政との話し合いで提案する内容の絞り込み

- (1) 都建築指導事務所における予備折衝及び本折衝にHDM推進会のメンバーの同行を希望する。本件を行政と市民の協働で推進するとの基本合意に基づく要望である。
- (2) HDM実証施設建設予定地は行政と我々の間で、ジャノメ跡地であるとの共通認識に達している。現在未利用地となっている草地に建設することを提案したい。そこへフォレスト社の設計で、脱臭装置付きのテントハウス方式の施設を建設する。都に建築確認申請する図面はフォレスト社が作成したものを、行政から出すことにしたい。
- (3) HDM処理する生ごみの重量測定にベルトコンベア式重量測定機を使うことを提案する。
- (4) 収集費や人件費等は行政側で試算願いたい。
- (5) 予算は環境基金から支出願いたい。

4. 今後やるべき項目

- (1) やるべきイベントが多いから、全体の工程表を作成して、効率的に進捗管理したい。（平林）
- (2) 住民に説明する時のために、想定問題集を作成しておきたい。（川村、加藤）

以上

次回打合せ

日時： 9月27日（月）10:00～12:00 / 場所： 喫茶店ウエスト

